

日本でも動き徐々に

日本にも、NPOやベンチャーで宇宙を目指す動きが少しずつ出始めた。

NPO法人「北海道宇宙科学技術創成センター」（札幌市、伊藤献一理事長）は、北海道大や植松電機（北海道赤平市）と共同で新型ロケット「カムイ」の開発を続けている。将来はカムイを使った無重力実験や高層大気観測などを商業化したい考えだ。北海道大樹町に国内外の宇宙関連企業を誘

致して「宇宙港」を建設する構想も描く。

カムイに当初からかかわってきた植松電機の植松努専務は「小さな企業でも宇宙開発はできることを見せたい。宇宙開発ができるなら他のこともできるかもしれない、と思う人が増えれば、日本は科学技術で世界を救う国になれる」と話す。

名古屋市のベンチャー「PDエアロスペース」（緒川修治社長）は、有人宇宙船に搭載する新型エンジンの開発に取り組んでいる。欧州旅行並みの約40万円で宇宙体験ができるビジネスの創出を目指している。